



日本歯科色彩学会  
http://www.jacd-dc.jp

# 日本歯科色彩学会 ニュースレター

## NO. 74

日本歯科色彩学会事務局  
〒950-2071 新潟市西区西有明町12-19 #101(OMY 会社内)  
発行人/新海航一 MAIL/info@jacd-dc.jp 発行日/2025年4月24日

会員のメールアドレスを学会事務局宛へお知らせ下さい

## 第32回日本歯科色彩学会 総会・学術大会のご案内

大会長 市村 葉

(明海大学歯学部 機能保存回復学講座 保存治療学分野)

第32回日本歯科色彩学会学術大会を2025年8月23日(土)、24日(日)にウエスタ川越にて開催します。大会テーマは『歯科色彩のハーモニー』とし、歯科臨床においてチーム医療の必要性が増している現在、歯科医師、歯科衛生士および歯科技工士との共同作業による技術や情報などとコラボレーションし、心地よいハーモニーを構築することを目指しています。一緒に診療に関わっている歯科衛生士さん、歯科技工士さんをお誘いあわせの上、川越の地にご参集ください。

8月23日(土)午後にウエスタ川越にて例年通り、常任理事会、理事・評議員会の開催、会場近くの「ラ・ボア・ラクテ」にて懇親会を予定しています。

8月24日(日)は、講演、ポスター発表および講習会を予定しています。午前の部において、会員ポスター発表の後、特別講演へととなります。特別講演は、三浦賞子先生(明海大学歯学部機能保存回復学講座クラウンブリッジ補綴学分野・准教授)に「天然歯と調和する補綴歯科治療—チームアプローチによる色調再現の探求—」についてお話して頂きます。午後の部では、講習会1として「歯そして歯冠修復装置の色調に対する様々な影響」について二瓶智太郎先生

(神奈川歯科大学副学長)、講習会2として「視感比色のトレーニング」について名取和幸先生(日本色彩研究所常務理事)の各先生方にお話し頂きます。

一般演題はポスター形式での発表とし、活発な意見交換が可能なように大会期間中はいつでも閲覧が可能です。また、協賛企業の展示スペースも常時設置して頂き、親睦を深めて貰えるよう進めて参ります。

今大会の会場となるウエスタ川越へのアクセスは、JR川越線、東武東上線「川越駅」西口より徒歩5分となっていて、入り口に階段状に広場があり、建物は多目的ホールや会議室を備えた複合施設になっています。周辺地域には、小江戸川越と称する江戸情緒の風情のある街づくりが成された観光スポットがあり、飲食店や見どころも多く、映える事間違いなしです。

多くの皆様と川越の地でお会いすることを期待して、大会事務局一同準備しておりますので、ぜひお知り合いをお誘いあわせの上ご参加のほど宜しくお願い致します。

\*詳細は大会ホームページ (<https://jacd.dtc.ac.jp/>) をご覧ください。

## “特集” ～私の診療室紹介～

ニュースレターNo.68 から前号まで 6 回にわたって掲載してきた“特集”「私の研究室紹介」を終了し、今号から新たな企画、“特集”「私の診療室紹介」をスタートさせることといたしました。当学会には、地域の歯科診療所で歯科の色彩に関して精力的に取り組まれている先生方が多く入会されております。この

ような会員の皆様の日常を少しでもご紹介いただくコーナーとして、会員同士のさらなる情報交換の場になればと考えております。お忙しい中、第 1 弾の原稿をご執筆いただいた永井茂之先生に心より感謝申し上げます。

(ニュースレター編集委員長 金子 潤)

### 副会長 永井 茂之 (東京都品川区・永井歯科診療室)

歯科診療所は、地域の歯科医療に貢献するという志で開業される歯科医師が多いのだろう。しかしながら、私の開業している東京などの都会では、地域医療に貢献するにも歯科医院の数が多く、コンビニより多いと揶揄されるほどである。また、SNS の一般化で、医院選びはネットで済みますのが当たり前の時代である。当院の様に、駅前ではなく、ホームページも持たない医院は、月あたりの新患はせいぜい 3 名もあれば良い方である。近隣の方はホームページの充実した診療所に行くので、当院は紹介患者や、たまにネットで色々調べてという方が遠方からお越しいただくことが多い。徒歩圏内の患者はほぼ皆無なので、残念ながら全く地域医療には貢献していない。1 日に 10 人で予約がいっぱいで、月のレセプト件数は 100 件を超えることは稀である。レーザーや顕微鏡など届け出が必要な加算は出していないので、なんか安い。充填や根治には必ずラバーダムをかけ、顕微鏡下で処置をするので時間がかかるが、保険が使えるので、すごく安い。年 5 回ほど海外講演に行くので、延べ診療日数は少ない。医院が成り立っているのは、自由診療が多いからに他ならない。とにかく歯科で出来ることの大半は自分で出来る様にしている。小児、矯正、外科、の標榜通りの一般開業医だ。歯科医療は日々進化しており、21 世紀の三種の神器と言

われた CBCT、レーザー、顕微鏡もすでに当たり前の設備になり、近年は DX 化が加速している。技工所と相談して光学印象の導入を検討したり、画像や動画のデジタル保存に追われ、少々辟易する。しかしながら、DX に取り残された歯科医院の存続には不安があろう。デジタル化された新規開業も増えている事であるし、サブスクに抵抗のある LP レコード屋のような当院は、ちょっとニッチな顧客を相手に静かに減んでゆくのである。高演色性蛍光灯の製造も無くなり、LED に付け替えなくてはならないが、在庫のあるうちはこのままだ。40 歳を過ぎてからは補綴物のシェードテイキングは歯科技工士に出張依頼している。若い眼の方が良いはずだし、何より制作者が患者全体を観察できるのは良い事だと思っている。



歯科技工士によるシェードテイキング

インターディシプリナリーなどと大袈裟なことでは無く、技工物の再製が減れば、患者、医院、技工所にとって恩恵となる。

先日の新患は、2年前に九州から横浜に引っ越して来て、近所の歯医者で診てもらったが、不安なので、

九州の先生に永井先生を紹介されていたのを思い出して、調べて来た、との事。その九州の先生は存じ上げないが、ありがたい話である。

”近所の歯医者”と言われない様に精進せねばなるまい

## 2024 年度 各種委員会報告

### 見学会委員会 (委員 高橋 英和)

#### 2024 年度 日本歯科色彩学会見学会「一歯科の DX」報告

標記の見学会が 2025 年 3 月 9 日に虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー15Fで開催された。当日は会員 22 名、非会員 1 名が参加した。講演は、株式会社 Dental Prediction CEO (歯科医師・医学博士) の宇野澤元春先生、本間輝章先生、岡崎勝至先生の 3 名が担当した。

宇野澤先生は、歯科医学教育における術前シミュレーショントレーニングと術中ナビゲーションサポート、そして国民皆歯科検診推進事業について紹介した。現在の歯科臨床治療の教育の場の 87%が勤務先のクリニックであり、従来は「勘と経験と度胸」に頼る部分が大きかった。そこで、CBCT データ、口腔内スキャナー、スマートフォンの画面データを統

合し、付加製造装置を用いて各種素材によるトレーニング用 3D 模型を製作する技術や、XR (仮想現実 (VR)・拡張現実 (AR)・複合現実 (MR)) を活用した歯科医療支援の可能性が示された。具体的には、スマートフォンの画面上に拡張現実 (AR) を用いて歯髄腔の位置や頭頸部の腫瘍の位置を表示する技術が紹介された。また、これらの技術を活用した国外や遠隔地との医療連携の実証実験についても言及された。

さらに、健康寿命の延伸を目指した歯科健康相談サービス「mamoru online」についても紹介された。このサービスは、歯科医師や歯科衛生士のノウハウを AI に学習させることで、一般の方の歯科知識向上を支援し、歯科健診や歯科受診を促進するものである。宇和島大島の郵便局を利用した実証実験からも、



宇野澤元春 先生



本間輝章 先生





岡崎勝至 先生

このサービスの有用性が期待されている。

本間輝章先生は、AR、VR、メタバース（インターネット上の仮想空間）を活用することで、VRゴーグルを装着することで複数人が同じ空間にいるかのような感覚でディスカッションが可能になる技術について紹介した。この技術により、安全で効果的なトレーニング環境を提供でき、歯科と医科をつなぐ場としての可能性が提案された。

岡崎勝至先生は、ニューヨーク大学と東京歯科大



会場の様子

学での教育経験をもとに、DXの有用性について紹介した。特に、歯根端切除術において、物理的なサージカルガイドとARを活用した手術支援技術の有効性について述べられた。

いずれの講演でも、従来の「アナログと勘と度胸」に頼っていた技術をIoTの活用によって予測性の高い治療へと変革できる可能性が示された。今後の発展が大いに期待される。

### 国内渉外委員会（委員長 市村 葉）

4月に入り新年度が始まった所も多いかと思えます。国内渉外委員会としても、会員増強を目指して新たな入会者獲得の戦略を模索しています。

前年度は参加した学会において、口コミ、人海戦術での案内やインフォメーションを積極的に行っていましたが、やはり限界もあり、なかなか印象に残りにくいという欠点もあったようです。前年度から提案させて頂いているホームページへのアクセスから当学会への興味を抱いて入会へ、という方法をしっかり確立させたいと思っています。サイト内に会員以外でもアクセス出来、入会に繋がられるような場所を作れば良いのではないかと考えています。ホームページの充実にも貢献出来れば幸いです。先日の見学会の内容も大変素晴らしく、色彩に局限されている訳ではなく、歯科医師であればどなたでも興味のある最先端の内容であり、このような情報を公

開することによって、当学会ホームページへのアクセスのきっかけになるのではないかと思います。それに伴い、入会案内をポチっとするのではないかと期待しております。ホームページ作成に関わる部門のご協力が必須であり、当委員会も積極的に協力をしたいと考えています。

今年の第32回学術大会のテーマでもあります『歯科色彩のハーモニー』に込めた異業種間とのコラボレーションを考えた場合、歯科技工士さん、歯科衛生士さんは勿論の事、歯科医師のみではなく色に関わるあらゆる方面へ間口を広げ、職種や業種を超えたハーモニーを築くところから、歯科の色彩に繋げていって欲しいと願っています。新年度という始まりの季節に新たな会員の参加を呼びかけると共に、身近で分かりやすい学会を目指して活動をしていきたいと思っています。そして、学会員との懇親を深めながら

当色彩学会を理解して頂く一番良い場所として、学術大会への参加が挙げられます。本年 2025 年 8 月 24 日（日）ウェスタ川越にて開催される第 32 回学

術大会への参加および参加のお誘いをぜひお願い致します。

### 認定士委員会（委員長 中山 友克）

認定士委員会では、認定士資格の審査や制度運営を行うと共に、学術大会「講習会 2」の企画・運営を担当しています。

第 32 回学術大会では、「視感比色の基礎とトレーニング」と題しまして、一般財団法人日本色彩研究所 常務理事である名取和幸先生にご登壇いただきます。本講習会が歯科色彩の分野でご活躍されている先生方のご研究や診療に資することができるよう

準備しています。

また、認定士資格取得の申請も随時受け付けておりますので、まだ取得されていない先生方もぜひ取得していただき、歯科色彩学の高度な研究と水準の維持向上を図っていただければ会の発展にもつながりますので、ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

### 機関誌編集委員会（委員長 堀田 正人）

「歯科の色彩」第 31 巻第 1 号が 2025 年 3 月 31 日に発行され、4 月上旬には会員の皆様に郵送される予定ですが、お手元に届いているでしょうか？総説論文 4 編、原著論文 3 編が掲載されております。昨年の「歯科の色彩」第 30 巻第 1 号においても総説論文 4 編、原著論文 2 編の掲載でしたが、昨年度の決算報告によりますと総説論文の掲載が多くなると謝礼金やカラー印刷の費用が発生したために学会誌の当初の予算よりも約 20 万円程度、オーバーすることになりました。しかし、総説論文からは有益な情報が多く得られることなど、学会誌の充実を考えますと総説論文の数をセーブすることは難しい判断となると思われます。また、近年、学術雑誌は大きな変化へ

の対応が迫られており、紙媒体での提供から電子化が加速的に進んでおります。電子化することで、学会運営のコスト圧縮（電子化による印刷費、配送費の削減）や購読会員を募り、その会員にはオンデマンド印刷ができるようにするなど、読者層を広げ、知識の共有を促進することができるようになると思いますが、新規論文が正規の会員以外でも読めるようになり、会員のメリットが減少することも考えられます。しかし、このような流れは止まることのないようにも思います。会員の皆さんは学術雑誌「歯科の色彩」を電子化することについて、どのようにお考えでしょうか。ご意見をお寄せ下さい。

### ホームページ委員会（委員長 木暮 ミカ）

2024 年度は、公式ホームページの情報更新として、第 31 回総会・学術大会の開催案内および 2024 年度見学会のご案内を掲載し、会員の皆様に最新情報を迅速に届けることを心がけました。また、より多くの方に本学会の活動を知っていただくため、情報発信

のあり方を継続的に検討しています。今後も引き続き、タイムリーで分かりやすい情報提供に努めてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



# 学会事務局よりお知らせ

幹事 鈴木 雅也

(日本歯科大学新潟生命歯学部 歯科保存学第2講座)



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、このたび当学会事務局は、2025年4月1日より移転することとなりました。つきましては、誠に恐縮ではございますが、お手元の住所録などをご訂正いただきますようお願い申し上げます。なお、旧

メールアドレスはしばらくの間、転送設定にて使用可能となっておりますが、関係各位への周知にご協力いただけますと幸いです。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 【編集後記】

ニュースレター No.74 をお読みいただき、ありがとうございました。

今号から新たに“特集”～私の診療室紹介～の連載がスタートいたしました。会員の先生方の診療室での工夫や、「歯科の色彩」へのこだわりをご紹介しますことで、それぞれの臨床に込められた思いや哲学が伝わればと思っております。共通のテーマである“色彩”を通じて、さまざまな視点に触れることができる企画として、今後の展開もぜひご期待ください。初回としてご登場いただいた永井茂之先生の記事も、大変読みごたえのある内容でした。

また各種委員会からは、見学会、国内渉外、認定士、機関誌編集、ホームページといった委員会それぞれの2024年度活動報告をご紹介します。年に一度の

報告ではありますが、委員の先生方の継続的なご尽力により、学会の多様な活動が着実に進んでいる様子を感じていただけたのではないかと思います。

さらに本年は、第32回学術大会が8月23日(土)、24日(日)に埼玉県川越市にて、市村葉大会長のものと開催される予定です。歴史と風情あふれる街・川越にて、対面だからこそ生まれる活発な交流と議論が実現することを楽しみにしております。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

次号も、会員の皆さまにとって身近で実用的な学会情報をお届けできるよう編集委員一同努めてまいります。ご意見、ご感想、ご投稿も随時お待ちしておりますので、どうぞお気軽にお寄せください。

(金子 潤)



日本歯科色彩学会ニュースレター編集委員会 金子 潤、新海 航一、中山 友克、小澤 有美